

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2018

10

No.812

P2 特集

地域ニーズに応える共同募金の運動性の再生を目指して
～募金運動スタート～

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」地域での支え合い

P7 みんなでつくるひょうごの福祉

おふくろ工房波賀・のはら～地域住民が気軽に立ち寄れる「憩いの場」～

P8 キラリ★社会福祉法人

社会福祉法人 きらくえん みんなでお昼ごはん会

P9 私の物語

介護と音楽“1秒でも笑顔で過ごせる1日を”
堤 吉輝さん(神戸市)

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション



神戸ビーフは、
海外でも人気で
知名度が高いんだよ!



10月から「赤い羽根共同募金運動」がスタートします。



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。





地域ニーズに応える 共同募金の運動性の再生を目指して ～募金運動スタート～

今年で72回目を迎える赤い羽根共同募金運動が10月からスタートした。「助け合い 広がる つながる 赤い羽根」の運動スローガンの下、来年3月末までの期間、県内各地で募金運動を実施する。

兵庫県共同募金会では、平成28年度に策定した「ひょうご共同募金運動推進2020年計画」に基づき、市区町共同募金委員会と共に各地域の状況に応じた重点目標を設定し、着実な募金運動の推進を目指している。

特集では、計画の普及・推進に向けて8月17日に開催した「赤い羽根ひょうごフォーラム」での講演や実践発表の内容を紹介しながら、地域ニーズに応える共同募金の運動性の再生に向けた取り組みを考える。



今回のフォーラムは、募金額の減少が続く中、地域福祉を進める運動性の再生を目指し、各市区町の運動の方向性と今後の方策を考える機会として開催。県内42市区町、100名を超える参加があった。次に、その内容を紹介する。

基調講演
「地域ニーズに応える
共同募金運動の再生を
目指して」運動性
再生のポイント」



上野谷 加代子氏
中央共同募金会70年
答申推進委員会委員長

共同募金と地域福祉
戦後に始まった共同募金運動は社会福祉実践の始まりだ。近年は子どもの貧困等、一目見てもその世帯

に課題があるのかが見えにくいことが多いが、戦後はみんなが「貧困」で助け合いの共感が得られやすかった。昭和26年の共同募金運動ポスターをご覧いただきたい。福祉制度がまだ生活保護や児童福祉しかなかった時代に、すでに「地域福祉がうたわれている。「地域福祉は日本固有の言葉だが、その言葉が日本に広まったのは、実はこのポスターのおかげだ。そもそも共同募金運動の目的は、地域福祉と寄付文化を広げることである。地域福祉を進める上では、「たすけ上手、たすけられ上手」が大切。人を支えるには個人や地域ごとの作法があるし、赤ちゃんのように支えられていても大人を元気づけている「たすけられ上手」もいる。そして一人の人が両方を兼ね備えていることも大切だ。共同募



昭和26年共同募金運動ポスター

金運動を通して、ぜひ「たすけ上手、たすけられ上手」を伝えていただきたい。

共同募金の運動性とは

共同募金は、地域住民が住民同士、関係機関との協働によって地域の課題解決を図る「運動性」を有している。その運動性を発揮するために重要なことは、住民に地域「ニーズ」に気付いてもらうことだ。そのためには、一人一人の願いや欲求を、地域のニーズに変えていく必要がある。地域のデータに基づいて地域全体の共通のニーズを把握し、その解決の必要性を訴えかけること。個人の願いと地域のニーズを橋渡しするのはまさに社協の仕事である。

また、皆さんは地域の課題解決の活動や募金運動に参加した方に、活動の結果をきちんと伝えられているだろうか。そのことが満足感や達成感につながり、より一層活動への参加が促されるのである。重要だ。

運動性の再生に向けた3つの取り組み

募金運動として展開していく上で、いくつかの重要な視点がある。

- 1つ目は地域ニーズに基づく助成計画を立てることだ。各社協の地域福祉推進計画に記載された重点的な事業を募金の配分計画に反映することが大切である。
- 2つ目は募金の在り方を見直すこと。戸別募金や法人募金等、従来から取り組んでいる募金方法を点検し、寄付者へより丁寧な説明を行いつつ、運動の活性化を図ることが必要だ。
- 3つ目は、募金委員会の設置。全ての市区町で委員会が設置され、地域の多様な人材や団体が参画した委員会運営をすることが必要だ。

共同募金は、いつでも、誰にでもできる社会参加の一つだと思おう。共同募金運動のプロセスに、「気づき」「気づきの共有」「課題解決の実践」「振り返り」の循環を取り入れながら、さらに運動性を発揮していただきたい。

シンポジウム
「じぶんのまちの共同募金運動のこれからを考える」

神戸市西区共同募金委員会

木村 裕行氏

中学生×福祉学習×募金箱デザインコンテスト」

赤い羽根共同募金のイメージとして「何に使っているのか分からない」という厳しい声がある。そこで神戸市西区では、楽しみながら共同募金を知ってもらおうと、地域活動の担い手育成も見据え、平成28年度から中学生を対象に、共同募金の学



平成29年受賞作品。受賞者の特別支援学校の生徒の母親から、わが子の絵が地域で役立つことへの喜びの声も

習と募金箱デザインコンテストをセットで実施している。また、大学生にデザインづくりの講師として協力いただいたり、中学校長や行政職員に審査員として参画していただいたり、区長に表彰状を贈呈していただく等、多くの方々の協力を得て実施している。

入選した募金箱は学校募金や生徒たちの生活圏域にある福祉センター等で活用することで、住民にも親近感を持ってもらうことができ、募金活動に自発的に取り組むといった変化が表れ始めている。

今年度はデザイン前の福祉学習をさらに強化し、生徒たちが地域活動に関心を持ち、募金運動に参加するきっかけづくりにつなげたい。

明石市共同募金委員会

事務局長 吉川 義明氏

子ども・若者・住民と進める募金運動」

明石市では、幅広い世代や配分を受ける側が主体的に参加できる仕組みづくりを進めるため、平成28年度から「あかし赤い羽根共同

募金フェア」を開催している。このフェアの特徴は、市内複数校の高校生に企画段階から運営ボランティアとして参画してもらっていること、当日は、市内の障害者支援事業所もステージで活動を紹介したり模擬店を出店したりすることにより、障害者と市民・若者らの交流の機会を設けていることだ。このような取り組みを通して、若い世代が、当事者への理解を深めたり、地域活動に参加するきっかけづくりにつながりたい。

もう一つ力を入れているのが、各校区の連合自治会やまちづくり協議会の会議に参加し、共同募金



フェアに参加した学生サポーターの高校生ら。統一感を出すため職員手作りの衣装を用意した

の協力依頼を行うことだ。また、依頼に応じて各単位自治会も訪問し、丁寧な顔の見える関係づくりを進め、幅広い地域住民の方々に共同募金の理解を深めていただきた上で運動に参加していただくことを目指している。

今後、共同募金運動を組織全体で取り組みながら、事務局の連携と職員の意識改革も進めたい。

篠山市共同募金委員会

事務局長 前田 公幸氏

篠山市では、募金運動に協力していた民生委員・児童委員の負担軽減のため、平成26年度に法人募金の個別訪問を取りやめた結果、実績額の大幅な減少につながり、

夏休みに試行的に実施した子ども食堂「ささっこ食堂」。今年度は期間拡大募金(テーマ型)で地域展開を目指す



夏休みに試行的に実施した子ども食堂「ささっこ食堂」。今年度は期間拡大募金(テーマ型)で地域展開を目指す

地域福祉財源に大きな影響が生じた。人口減少の中、戸別募金を伸ばすことが困難なことから、法人募金の強化に重点を置き、役職員が一体となって企業訪問を再開することとしている。共同募金の担当者だけでなく、職員が一丸となって取り組みを進めたい。

また、市社協では子ども食堂の拡充を目指し、「子どもは地域の宝、子育て支援の輪を広げよう！」をテーマに掲げている。今年度は、この子ども食堂への支援のための期間拡大募金(テーマ型)募金を1月から実施し、企業にも参画を呼び掛けていきたい。篠山市には県内の募金百貨店プロジェクトの1号店があり、今年度は分かりやすいテーマを示して企業をはじめ多くの方に共感を広げて募金運動を進めたい。

ひょうご募金百貨店 マルシェを初開催!

県内に広がりつつある「募金百貨店プロジェクト」の普及促進の



百貨店マルシェの各ブースにはたくさんの来店者が訪れた(福祉センター1F 福祉サロン)

ため、「赤い羽根ひょうごフォーラム」と同日開催した「ひょうご募金百貨店マルシェ」。今回、初の試みとして、本プロジェクトに参加する6つの企業・事業所の協力を得て、パンやフッキー、コーヒーの販売のほか、マッサージの体験ブースなどを設けた。各ブースでは、寄付つき商品の紹介や日頃の活動をPRした。来店者からは、「実際に取り組みを見ることができ、今後の活動の参考になった」といった声が寄せられた。

昨年度は、商店街を巻き込んだ取り組みも広がり、88店舗の参加があった。今年度も、共同募金運動への新たな協力方法としてさらに推進していく方針である。

72回目の運動に向けて

赤い羽根ひょうごスローガン「助け合い広がる つながる 赤い羽根」と5億2950万9千円的目標を掲げて、来年3月末までの期間、県内各地で募金運動を実施する。今年度の運動では、ひょうごの地域福祉推進への理解と共感を広げることを目的としてオリジナルポスターを作成した。本県のポスターの活用数は全国一。これは、県内一丸となり、多くの住民や企業、学校、民生委員・児童委員、募金協

平成30年度共同募金運動ポスター



CONCEPT

幅広い世代の住民が赤い羽根を応援することで、誰もが地域のためにできることがあることを表現し、一緒に共同募金運動を盛り上げていこうというメッセージが込められている。

力員、ボランティア、社会福祉関係者の参加と協力を得て、募金運動を実施している証である。

そして、さらなる協力の輪を広げ、募金運動の強化を推進するべく、「ひょうご共同募金運動推進2020年計画」の、4つの協働推進目標「配分・広報・募金・組織」に基づき、県内50市区町共同募金委員会と共に各地域の状況に応じた重点目標を設定した。

具体的には、「配分だけに終わらない関係づくりの構築」や「次世代を担う子どもたちを巻き込んだ運動の推進」、「幅広い世代に向けた広報啓発」、「募金百貨店プロジェクト

配分	広報	募金	組織
今の福祉課題に対応した配分になるよう点検や見直しを進める	みんなが福祉の課題を知り伝えられるようにする	人と人とのつながりを大切にしながら募金活動で共感を得る	共同募金運動への協力の輪をさまざまな人たちに広げる

「ひょうご共同募金運動推進2020年計画」4つの協働推進目標(要約)

助け合う仕組みで地域共生のまちづくりを目指して

近年、地域の生活・福祉課題は多様化し、地域によっても実態が異なる。共同募金は、こうした地域における福祉ニーズを資金面から支え、制度の狭間にある課題を解決するため、住民・福祉関係者・団体をはじめとする多様な方の参加と協力を得ながら70年以上にわたり運動を続けてきた。

最近では、共同募金の仕組みを活用して、財源確保の困難な子ども食堂や学習支援の活動、災害時に備えた資材・物資の備蓄など、それぞれの地域の福祉課題をテーマとした「テーマ型募金」を実施する地域が増えている。実際に配分を受けて事業を実施する団体にも募金活動に協力いただくことで、使い道が明確になり、目標額を上回る募金が寄せられている。

こうした新たに広がっているテーマ型募金に代表されるように、住民が主体的に地域課題を捉え、解決していこうとする仕組みとして、運動性の再生を図り、今後の共同募金運動の発展と地域共生のまちづくりを目指す。

今回は、宍粟市波賀町にある、閉園した幼稚園を活用した地域レストラン「おふくろ工房波賀・のはら」を紹介するよ。人が集うためのさまざまな工夫を凝らし、地域の居場所になっているんだ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

「地域のために何かしたい」という思いから
「おふくろ工房波賀・のはら」以下、「おふくろ工房」は、婦人会の解散を機に「これまで育んできた女性のネットワークを生かし、地域が元気になることをしたい」という3人の女性たちの思いから始まった。

はじめの5年間は、道の駅や公民館などを借りて食を提供してきたが、平成27年11月に旧野尻幼稚園を改装したレストランをオープン。念願の活動拠点を手に入れることができた。かつて子どもたちが通っていた園舎には、どこか懐かしい雰囲気。顔が訪れた人をほっとさせる。

「おふくろ工房」の運営を担うのは、波賀町内の各自治会から集まった女性10名である。自治会から運営メンバーを選ぶことで、「住民が運営する体制にして、地域全体で盛り上げたかった」と呼び掛け人の植田さんは語る。教員、保育士、銀行員などを退職した女性たちが、それぞれの強みを生かした活動を行っている。

レストランの看板や飾られている

おふくろ工房波賀・のはら

～地域住民が気軽に立ち寄れる「憩いの場」～

旧幼稚園を改装したレストラン。訪れた人々の憩いの場となっている



思い出の園舎でモーニング

る絵は、会員やボランティアなど地域住民の協力によるものだ。代表の可藤さんは、「地域住民の協力が得られるのは、このレストランが自分たちの拠点だと感じてくれているから」とニコやかに話す。

メンバー自身が楽しむことを忘れない

週2回(土・日)の営業日に加え、敬老会などのイベントでは予算に応じた弁当の販売も行い、「おふくろ工房」の味を広く伝えている。また、地域の拠点として、誰もが参加できるクリスマスコンサートや地域の子どもたちに巻き寿司体験会を開催するほか、地元農家から提供してもらった野菜等を食材にするなど地域の活性化にも力を注ぐ。

取材を終えて

おふくろ工房波賀・のはらの取り組みから、地域の居場所づくりは地域住民の理解と協力を得ることが大切なのだと思感しました。

おふくろ工房波賀・のはら
*営業日は、土曜日(モーニング)・日曜日(ランチ)
宍粟市波賀町野尻131-1
TEL・FAX:0790-75-2721

こうした取り組みが少しずつ広がり、地元住民だけでなく遠方から訪れる方も増え、顔なじみの関係も出てきた。「誰もが来てよかったと思えるような場所になりたい。訪れた方が笑顔でくつろぐ姿が活動の糧と、メンバーは口をそろえて話す。

現在、メンバーの平均年齢は67歳。「若い人の斬新な発想で、さらに活動を広げたい」と、次世代に参画してもらえらる方策を検討している。地域を巻き込む工夫を凝らし、活動を広げる「おふくろ工房」のさらなる活躍から目が離せない。



「ストップ・ザ・無縁社会」
地域での支え合い
<http://stop-muen.jp>

「支え合い社会」県民フォーラム開催報告

“居場所、交流、支え合い”をキーワードに、
「地域での支え合い」の大切さを共有しました!!

8月28日、神戸芸術センター芸術劇場で、「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会総会と「支え合い社会」県民フォーラムを開催。県内外から社協・行政・施設関係者、民生委員・児童委員、ボランティア、研究者、学生ら650名が参加しました。

開会に当たり、キャンペーン推進協議会代表幹事の吉本知之県社協会長は、本年度からの新テーマ「地域での支え合いをすすめよう!」を紹介し、「多様な分野の関係者や県民の皆さまと一緒に協働しながら、『支え合い社会』を実現していきましょう」と参加者に呼び掛けました。

その後、新しい啓発パンフレットに基づいて取り組みを説明し、平成29年度事業報告・決算と平成30年度事業計画・予算が承認されました。



記念講演

「家族との関わり～母として・娘として～」

パネルディスカッション 「交流と支え合いの輪を広げよう」

コーディネーター 松原 一郎氏(関西大学社会学部教授)

パネリスト

- 入江 一恵氏 (NPOひまわり会理事)
- 丸野 登志子氏(NPO法人灘水仙の里代表)
- 上野 武利氏 (西宮市社会福祉協議会事務局長 兼 共生のまちづくり課長)



パネルディスカッションでは、地域の居場所づくりを通じて交流を生み出し、支え合い活動を展開する住民主体の地域福祉実践から、社会的孤立の防止や身近な地域のつながり・支え合いのヒントを探りました。

神戸市と明石市にまたがる明舞団地の再生とコミュニティの活性化に取り組む入江氏の報告、人口減少と過疎化が進む南あわじ市灘地区で活動する丸野氏の報告から、住民一人一人の尊厳を大切にする居場所づくりと、「支える、支えられる」双方向の支え合いの在り方についてポイントを確認しました。

上野氏の報告からは、個人宅や空き家を活用しながら多様な居場所づくりを進めている事例が報告され、交流拠点のゆるやかなネットワークから地域内での協議・協働を経てまちづくりにつなげていくことの重要性を学びました。

このような報告を交えて、松原氏は「住民一人一人がかけがえのない存在です。お互いに慈しみ合うことで、自分たちに共通する問題として主体的に取り組む気持ちになります。これは住民自治、市民自治の原点と言えるかもしれません」と、実践のポイントを解説し、これからの「地域での支え合い」に期待を寄せました。



このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

介護と音楽“1秒でも笑顔で過ごせる1日を”

つつみ よしき
堤 吉輝さん
(神戸市)

Personal History

昭和62年 南あわじ市に生まれる
平成20年 特別養護老人ホーム友が丘YUAI入社
平成23年 シンガーソングライターとして活動を開始
平成29年 アルバム「ぬくもりぼっくす」を発売し、全国デビュー



「1秒でも笑顔で
過ごす1日を」
というモットー

現在、YUAIでは副主任として日常生活における介護業務を担う。高校生の時、実習授業で老人ホームを訪問したことをきっかけに人と関わる喜び、笑顔になってもらう幸せを感じました。お年寄りを支えたいという気持ちも強くなり介護福祉士の道を選びました。専門学校を卒業後、友が丘YUAI(以下、YUAI)に入社し、介護福祉士として無我夢中で働きました。

仕事にも慣れ、少し自分の時間が持てるようになったこと、音楽が好きの父親に影響され小さい頃から歌うことが大好きだったことが重なり人前で歌いたいという思いが募りました。また、病気で落ち込んでいた父親を元気づけたい気持ちもあり、ギターや作曲などを独学し、シンガーソングライターとして一歩を踏み出しました。

介護と音楽の喜び

中で、利用者自身が何かしらの役割を持ち、必要とされていると思える環境づくりが大切だと感じています。また、利用者一人一人のペースに合わせて生活リズムを整えるに当たり、本人の人生を知った上で接することを心がけています。利用者がしたいことを叶える「夢プラン」では、故郷巡りや家族との時間を過ごすことで、イキイキとした笑顔が溢れます。

シンガーソングライターとして自身のことだけでなく、施設や地域から依頼を受けて作詞作曲し、歌うこともあります。多くの方に関わるからこそ、人とのつながりを大切にしています。「歌が大好き、人気者になりたい」と自分のために始めた音楽が、いつしか「元気をもらえた、感動した」と感謝される音楽になっていました。このように活動できているのは、家族やYUAIの協力があるからだとい



介護士会で観客を魅了する堤さん
会場:高梁伍拾七(神戸市兵庫区)

から感謝しています。

「福祉×音楽」を実現させる場として、介護士会を主催しています。介護士会は、介護と触れ合う機会や知識が少ない「一般の方」や、医療福祉の現場で試行錯誤している方に、音楽を通して介護等のことを知ってもらい、学び合うイベントです。6月にライブハウスで開催した第1回介護士会では、ライブだけでなく、お客さんを巻き込んで意見交換を行いました。

これからは現役介護士シンガーとして、一人でも多くの方に笑顔をお届けするため介護音楽に限らず新たな分野に挑戦して、もっと活動の幅を広げていきたいと思っています。

「福祉×音楽」から新たな分野に挑戦したい

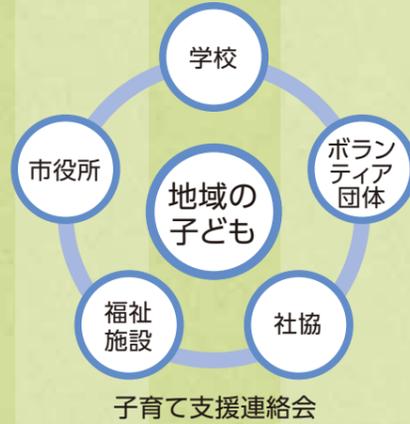
Q2.どのように活動を進めていますか

A2.地域の方向けの講座を企画する等、地域交流事業を担当する職員が、学校の長期休みに合わせて年間計画を立てて実施しています。運営は、施設とつながりのある地域のボランティアや家族会メンバーが中心です。食材の調達やメニューの決定もお願いしています。

夏休みは毎週水曜日、子どもたちは朝から地域交流スペースで遊び、一緒にお昼ご飯の準備をして、みんなでご飯を食べています。毎回、ボランティアも合わせて約30人で食事を楽しみますが、子どもたちもお客様ではなく、



看板を描いたり、準備や後片付けも手伝います。学校に広報を協力してもらいながら、活動は口コミでも広がっています。



暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

キラリ★社会福祉法人★ ～社会福祉法人きらくえん～

みんなでお昼ごはん会

今回は、高齢者福祉施設けま喜楽苑が取り組むこども食堂「みんなでお昼ごはん会」を紹介します。

施設の地域交流スペースを開放し、子どもたちに学校の長期休み(夏休みや冬休みなど)に合わせて食事を提供し、学校や家庭以外の居場所づくりをしています。

地域のボランティアや学校等地域の各団体と一緒に、地域の子どもたちを見守る社会福祉法人の取り組みです。



Q3.今後、どのように進めていきたいですか

A3.活動を始めてから、長期休みだけでなく、日常から子どもたちが地域交流スペースで遊ぶようになり、20～30代の親世代が施設を訪れるようになりました。お祭りや地域向け講座などの地域交流事業の参加者層も広がりました。

また、学校や市役所の窓口が閉まり、相談する場所がなくなる夜間に、子どもが「お腹が減った」と施設に来ることもありました。連絡会でのつながりがあるので、すぐに学校関係者等と情報共有でき、食事を提供するだけでなく、その後の継続的な支援につなげることもできました。365日24時間誰かいる施設の特性を生かし、幅広い世代が自然に集える安心できる居場所づくりを目指していきたいです。

社会福祉法人きらくえん
高齢者福祉施設 けま喜楽苑
尼崎市食満2-22-1
TEL:06-6493-8300
URL:<http://kirakuen.or.jp/>

子どもの進学支援を
考えるフォーラムを開催

「子どもの貧困」問題が社会の関心を集める中、学費の無償化や奨学金制度など、さまざまな経済的支援の充実が図られている。一方で、その奨学金による負債を抱えたまま中途退学をしてしまう子や、ゲームやアニメなどによる将来の職業選択に結びつきにくい学校を選択する等、経済的支援だけでは補えない課題が見受けられる。

これらの進学に関する課題への支援について考えるため、学校関係者やNPO、行政、社協職員ら80名が集まり、8月10日に神戸大学先端融合研究環境総合研究拠点コンベンションホールにおいて、「低所得世帯の進学支援を考えるフォーラム」を開催した。

講演では、日本福祉大学の野尻紀恵准教授が登壇し、貧困家庭に暮らす子どもへの支援において、そ



の連鎖を断ち切るために支援者に求められる視点等について、具体的な事例を交えて解説された。

続いて行われたパネルディスカッションでは、神戸市で子育て家庭の支援に携わる鎌田あかね、大角玲子の両氏、三田市で子どもの居場所・学習支援に携わる大島一晃氏が登壇。それぞれの活動事例を基に、孤立の解消など世帯として抱える課題についてのアプローチが子どもの支援に繋がるといった提起がなされた。



それぞれの登壇者が共に訴えた、「奨学金等の経済的支援が有効に機能するためには、世帯が抱え

る課題の解決も必要である」課題解決に向けては、関係機関が連携をして取り組むことが重要である」との指摘は、多くの参加者から強い賛同を得た。

今後は、参加者をはじめとした関係者それぞれが、その実践の中で解決に向けて取り組みを進めていくことが期待される。

経営計画の策定を学ぶ
ゼミナールがスタート！

8月30日、兵庫県社会福祉法人経営者協議会・青年協議会（以下、「青年協」）の主催で、経営計画策定のリーダーを養成することを目的とする「社会福祉法人経営計画策定リーダー養成ゼミナール」が開催され、14法人49名が参加した。このゼミナールは、長年本会の経営計画策定事業に携わっている兵庫県立大学政策研究所長で経営学部の當間克雄教授を講師にお招きし、同氏が執筆・監修した「社会福祉法人経営計画策定ワークブック」をテキストに全5回のプログラムで実施される。

第1回目の今回は、冒頭に青年



協の大和田副代表が経営計画の策定に取り組む重要性について説明をした後、當間教授から経営計画策定の意義や法人の基本理念を踏まえたビジョン策定について講義があった。その後、参加者は経営理念に基づいた3年後のあるべき姿（ビジョン）を設定するワークに熱心に取り組んだ。

新刊書籍のご案内

社会福祉法人
経営計画策定
ワークブック

定 価 1,200円+税
(送料別)
申し込み 県社協企画部
TEL 078-242-4636

被災地支援レポート

▽岡山県に社協職員を派遣

全国で死者223人、全半壊17,004棟の被害（9月10日現在）をもたらした豪雨災害から間もなく2カ月を迎える。兵庫県が発災直後から支援を続けてきた岡山県では、現在も避難者数が600名を超えており、仮設住宅への入居がようやく進みつつある状況である。

岡山県内の各地で設置された災害ボランティアセンターでは、9月7日までに計75,360名のボランティアが活動し、家財の搬出や床下の泥出しなどが行われた。今後は、仮設住宅における生活支援のニーズの増加が見込まれている。



▽全国で多発する災害

兵庫県内の社協では、全社協の要請の下、近畿ブロック府県・指定都市社協と連携しながら倉敷市災害ボランティアセンターの運営等の支援を行い、近畿ブロック全体として延べ461名（9月20日まで）の職員を派遣している。

9月4日には、非常に強い台風21号が本県に上陸。各地で電柱の倒壊による停電や家屋等の破損被害が発生したほか、神戸市内を中心に高潮による浸水被害が発生した。大阪府や京都府では多くの市町で災害ボランティアセンターを設置し、家の片付けなど生活上の困り事への支援が行われた。

また、9月6日には北海道胆振地方を震源としたマグニチュード6.7の地震が発生。震度7を観測した厚真町など広い範囲で大規模な土砂崩れ等が発生し、被災地の各社協において災害ボランティアセンターが設置された。

兵庫県平成30年7月豪雨災害義援金

募集期間 平成30年7月26日（木）～平成30年10月31日（水）

受付口座

金融機関名	口座番号	口座名義
ゆうちょ銀行	00990-6-237571	兵庫県平成30年7月豪雨災害義援金
三井住友銀行神戸公務部	3053278	募集委員会
みずほ銀行神戸支店	1879007	

- 県内被災地への支援を希望する場合は振込依頼人名の冒頭に「ケンナイ」を、県外被災地への支援を希望する場合は「ケンガイ」を追加してください。
- ゆうちょ銀行・郵便局窓口、三井住友銀行本支店ATM、みずほ銀行本支店窓口・ATM・インターネットバンキングでの振込手数料は無料になります。

全国の被災地支援の情報は、全社協被災地支援・災害ボランティア情報のホームページで確認してください。
<https://www.saijaivc.com/>

福祉サービスに関する苦情解決セミナーのご案内

精神障害の方に対する相談支援の在り方・虐待予防等に係る講義、さらに現場事例に係る演習を通じて、苦情解決の取り組みを推進する方策について学びを深めます。

日時・場所 (①②とも同一の内容です)

- ①姫路会場 11月6日（火）13:15～16:50 県立姫路労働会館多目的ホール
- ②神戸会場 12月11日（火）13:15～16:50 県中央労働センター大ホール

対象 福祉サービス事業所職員、苦情解決責任者、苦情受付担当者、第三者委員等

講師 光田 豊茂氏（精神保健福祉士）
福島 健太氏（弁護士）
西野 佳名子氏（社会福祉士）

締切 ①10月19日（金） ②11月26日（月）

受講料 3,000円（①②いずれかに申し込みください）

申し込み・問い合わせ
兵庫県福祉サービス運営
適正化委員会
TEL 078-291-7070

助成金情報

県社協「ひょうごボランティアプラザ」のWEBサイト (<https://www.hyogo-vplaza.jp/>) では助成金情報を多数掲載しています。ぜひご利用ください。

東京海上日動あんしん生命保険株式会社 奨学金制度

経済的理由により大学等への進学を諦めないために、奨学金を給付します。

対象 疾病により保護者を失った遺児で、経済的理由により支援を必要とし、大学等への進学希望がある方。年間世帯収入金額が指定条件を超えない方。

助成額 1件年間30万円

締切り 平成30年10月31日(水)消印有効
④ ⑤ 公益社団法人日本フィランソピー協会
 TEL 03-5205-7580

URL <http://www.philanthropy.or.jp/anshin/>

日本郵便株式会社 2019年度年賀寄附金助成

社会福祉の増進を目的とする事業など、「お年玉付郵便葉書等に関する法律」に定められた10の事業に対して助成します。

対象 **一般枠:** 社会福祉法人、更生保護法人、一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人、公益財団法人、特定非営利活動法人(NPO法人)
特別枠: 営利を目的としない法人

助成額 1件上限500万円 ※活動・チャレンジプログラムは上限50万円

締切り 平成30年11月9日(金)消印有効
④ ⑤ 日本郵便株式会社
 TEL 03-3504-4401

URL <https://www.post.japanpost.jp/>

公益財団法人JR西日本あんしん社会財団 2019年度公募助成

①活動助成

対象 近畿2府4県を拠点にする、事故・災害や不測の事態に対する備え、およびその後の心や身体のケアに関する活動をする非営利の民間団体(法人格の有無は不問)

助成額 1件上限70万円

②研究助成

対象 事故・災害や不測の事態に対する備え・事故防止、およびその後の心や身体のケアに関する研究を行う、近畿2

府4県にある大学などに所属している研究者

助成額 1件上限200万円(①②総額5,000万円を予定)

締切り ①②ともに平成30年11月14日(水)
④ ⑤ 公益財団法人JR西日本あんしん社会財団
 TEL 06-6375-3202

URL <https://www.jrw-relief-f.or.jp/>

公益財団法人ヤマト福祉財団

①障がい者給料増額支援助成金

既に障害者の給料増額に一定の実績がある施設・事業所(ジャンプアップ助成金)や全国平均以上の給料支給実績がある施設・事業所(ステップアップ助成金)に対し、事業資金を助成します。

対象 所定の要件を満たす就労継続支援A・B型事業所、地域活動支援センター、生活介護事業所

助成額 【ジャンプアップ助成金】1件定額500万円(10件程度)【ステップアップ助成金】1件上限200万円(20件程度)

②障がい者福祉助成金

対象 会議・講演会・研修・出版・啓発・調査・研究・スポーツ・文化に関する事業

助成額 1件上限100万円(総額1,000万円)
締切り ①②ともに平成30年11月30日(金)消印有効

④ ⑤ 公益財団法人ヤマト福祉財団
 TEL 03-3248-0691

URL <https://www.yamato-fukushi.jp/>

公益財団法人日本社会福祉弘済会 2019年度社会福祉助成事業

社会福祉関係者の専門性向上などを目指した研修事業や研究事業に助成します。

対象 社会福祉事業や福祉施設の運営、福祉活動などを目的とする社会福祉法人、福祉施設、福祉団体

助成額 1団体上限50万円かつ助成対象経費合計の80%以内(総額2,000万円以内)

締切り 平成30年12月15日(土)消印有効
④ ⑤ 公益財団法人日本社会福祉弘済会
 TEL 03-3846-2172

URL <http://www.nisshasai.jp/index.html>

行事予定

10月1日~ 赤い羽根共同募金オープニングセレモニー

◆神戸空港ターミナルビル
8日・9日 福祉の就職説明会(姫路会場)

◆じばさんびる
10日 新任職員ステップアップ研修Bコース
 ◆県社会福祉研修所

日常生活自立支援事業生活支援員研修会

◆県福祉センター
11日 若年性認知症支援担当者研修

◆県福祉センター
13日・14日 福祉の就職説明会(明石会場)

◆あかし市民広場
14日 介護支援専門員実務研修受講試験

◆神戸市内
16日 第1回ひょうごボランティアプラザ運営協議会

◆ボランティアプラザセミナー室
18日 ストレスマネジメント研修

◆県社会福祉研修所
19日 福祉のしごとと職場見学バスツアー(但馬コース)

◆とよおかの里・楽々むら
23日~ 介護支援専門員専門研修課程II・更新研修A(後期)

◆県社会福祉研修所ほか
25日 県経営協 第249回理事会・例会

◆マーカススクエア神戸
 アセスメントスキル向上研修

◆県社会福祉研修所
26日 NPO法20年但馬フォーラム

◆豊岡市役所
27日 福祉のしごとと職場見学バスツアー(阪神コース)

◆オレンジ西宮・尼崎武庫川園
31日 第2回社会福祉法人連絡協議会代表者連絡会

◆県福祉センター
11月1日 第1回社会福祉研修委員会

◆県社会福祉研修所
 県内市町社協事務局長勉強会(2回目)

◆県福祉センター
6日 苦情解決セミナー(姫路会場)

◆県立姫路労働会館
9日 NPO法20年阪神・丹波・神戸フォーラム

◆西宮市市民交流センター

ホームページは、どんどん進化する。

PC・スマートフォン対応のWEBサイトをご提案。

フレキシブルな対応で、お客様の要望を叶えます。



株式会社メックコミュニケーションズ TEL. 078-230-7525 <http://www.mec-com.co.jp>



Hospitality & MICE

国際都市・神戸のリーディングホテルとしてこれからも信頼のサービスをお届けしてまいります。

- ポートピアホール1,702席 スクール形式610席 (6ヵ国語同時通訳設備、コンサートホール対応)
- 高速LAN全館完備
- 客室746室 ■宴会場36室
- レストラン&バー など13店
- 室内・屋外プール、テニスコート、ジム、サウナ
- ショッピングアーケード ■駐車場450台収容

〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10番地1

ご予約・お問い合わせ Tel.(078)302-1111

ホームページアドレス <https://www.portopia.co.jp/>

ポートピアホテル